

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070600307		
法人名	有限会社 深英会		
事業所名	グループホーム サンフラワー 1ユニット		
所在地	沼田市新町452-1		
自己評価作成日	平成22年7月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、気付く優しさ 1、悔いなき行動 1、笑いあえる信頼関係 1、みんなで築こうサンフラワーの運営理念を掲げ、ホーム長・管理者を始め全職員が理念の実践に取り組んでいる。定期的な勉強会を行い、抽象的な理念の中から、各自課題を見つけ出し、認知症の方のその人らしさを尊重し、日々の介護サービスの質の向上を目指している。また、みんなで築こうサンフラワーのみんなの中には、利用者様、ご家族様、職員だけでなく、地域住民やボランティア等、広い意味が含まれており、地域密着型サービスの意義を職員が周知し、地域の中にあるサンフラワーを目指す為、努力している。利用者様が認知症であっても、地域の中で日々幸せを感じ生活できることを目指し、事業所の基本方針である、運営理念に沿ったサービスを提供できるように、職員教育には、特に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員を対象に募集した語句を基に検討された理念は、独自性で方向性のあるわかりやすいものである。一日の始まりは、理念の確認と理念を意識した利用者個々に対する具体的なケア目標、支援方法・内容である。フロア全体に5カ所のユニットがあり、各ユニットの境はドアで仕切られ、ドアを開ければ自由に行き来できる。決められたユニット内だけでなく、他のユニットを訪れ利用者同士の交流や、職員との馴染みの関係を築いている。管理者やユニットリーダーが中心になって勉強会を行い、サービスの質の向上に職員全員で取り組んでいる。また、職員自らで認知症ケア専門士資格や国家資格取得に向けて学習している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の『みんなで築こうサンフラワー』のみんなに地域も入っている事を職員で共有し、勉強会を実施し理念よりユニット目標を作り、介護現場で実践している。	毎日の朝礼時(10時)、全職員で理念を唱和し再確認している。ユニット毎に理念を活かしたその日の目標を具体的に立て支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	子供110番になっている。事業所の行事への参加を促したり、地域行事への参加の他、散歩や、ホーム周辺の清掃時には、挨拶を交わしあい交流をもっている。	自治会に加入し、回覧板や行事(どんどん焼き)に参加している。また事業所行事(お祭り、バーベキュー)には、地域の方々を招待したり、採りたて野菜を頂く等、地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方へ情報提供したり、支援の方法や実践の報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニット別に、利用者様やサービスの実際を報告をしたり、評価を議題にしたりし、ご家族様や地域の方の意見を取り入れたり実践に活かしている。	2ヶ月に1回、家族の都合に合わせて日時を決め開催している。各ユニットリーダーから利用者の日頃の様子や行事等の取り組みについて報告が行われ、意見を伺い支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも、連絡を取り、生保の方の相談や、公園への車両乗り入れ許可を得たり等、協力関係を築いている。	車椅子貸出しの件や行事のための駐車場の許可を受けている。また、研修会や地域ケアマネージャーの勉強会等に参加し、相互・協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	厚生労働省の定める身体拘束廃止推進委員の養成研修を修了した職員が、社内で全職員を対象に身体拘束防止の勉強会を実施。玄関の施錠については、事故がないよう安全に配慮し解放する時間を定めている。	身体拘束に関する研修を受講した職員による伝達講習を行い、また「態度マニュアル」を作成し、全職員に指導、拘束しないケアに努めている。全居室のフロアから玄関へ通じる出入口階段は施錠され、職員が開錠している。	利用者の安全を考慮しながら施錠時間の検討に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットに虐待防止マニュアルがある。また、社外研修終了者が社内にて勉強会を実施し、虐待や虐待とまでは言えないが不適切なケアについて学びあい、虐待が見過ごされないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	厚生労働省の定める権利擁護推進委員養成研修を修了した職員が、社内勉強会にて勉強会を実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、十分な説明と同意を得てインフォームド・コンセントを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を、ホーム内外に設置の他、第三者設置委員を設け契約書に明記説明している。また、玄関には意見箱を設置し運営推進会議で話し合う機会を持っている。	契約時、事業所以外の苦情相談窓口を書面を用い説明している。玄関には意見箱の設置、運営推進会議での発言の機会を作っている。面会時、家族から外スロープに屋根を設置して欲しいという意見があり、検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長、管理者は随時報告・連絡・相談を受け付けている。また、食事会等を行い意見を言い易い機会を設け、その意見を反映させている。	意見や提案の発言の場は、食事会や会議を利用してはいるが、傾聴姿勢は代表者、管理者ともに常にもっている。職員から、突然の退職があった場合、利用者に迷惑のかからない方法(人材補充)を求める等の意見があり、解決に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇、リクエスト休暇等自由に休日を取ることができる。介護職員処遇改善交付金等も手続きを行い、給与水準の見直し他、個人目標を設定し、資格取得を支援し向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	群馬県立高齢者介護総合センターにて厚生労働省の定める研修に参加する他、地域密着型連絡協議会の行う研修等にも参加、社内勉強会も月に1回以上行い、職員を育てる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会にて、同業者と交流し情報交換したり、介護福祉士会北毛支部の行う施設見学会、勉強会等に参加しサービスの質を向上出来るように取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が、利用者様の訴えを傾聴し受容出来るように相談援助の教育を行っている。また、日頃のケアの中でも、常に要望等に耳を傾け、信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	全職員が、ご家族様の訴えを傾聴し受容出来るように相談援助の教育を行っている。また、日頃の面会時や電話連絡時でも、常に要望等に耳を傾け、信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、支援がすぐできる時には何を必要としているのか良く考え対応し、対応しかねる場合は、ご家族様と連絡を取ったり、ご家族様との話により望んでいる対応を柔軟に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中に役割を見つけ、利用者様個人個人の能力により、洗濯物たたみ、調理、食膳拭き、畑仕事をお願いし、介護される一方の立場にならないように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携をはかり、無理のないように一緒に面会、外出、受診を促し、支援される一方の立場にならないように、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会は勿論、知人からの電話や手紙で関係を保ち、また近くを散歩しながら会いに行けるように支援している。	利用者に「昔、とても世話になった」と面会に訪れる方や、以前からの理・美容室を家族の送迎で利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前10時・午後3時にはお茶の時間をつくり利用者様同士が関わり合える時間を作っている。また、レクリエーションや会話には職員も間に入り、円滑な関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もアフターフォローとして、いつでも相談に乗る体制を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で把握に努めている。ご本人様からの訴えは勿論、言動、行動により、ご本人様の意思、本位を掘り下げ意味づけし、意向の把握に努めている。	生活歴、日常の会話や表情・行動の中から把握している。利用者の打ったうどんを調理し皆で頂いたり、園芸をする方、買出し時の同乗を常に希望しドライブ気分で出かける方等、利用者のニーズに応じた支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家庭訪問し、書類やご家族様などよりアセスメントしたり、ご本人様の会話の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の性格、行動等から一人ひとり記録に残し、過ごし方や、心身状態や、有する力を把握する為、ユニット会議(カンファレンス)を行い、職員が情報を共有し努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の行動と意見や経過記録などから、情報を整理、分析し、ユニット会議(カンファレンス)を行い、ご家族様、医師、ケアマネ、職員等、それぞれの意見やアイデアを反映させた介護計画を作成している。	家族や本人から自宅での生活の様子や希望を伺い、職員からの情報と合わせた資料を基に介護計画を立てている。また状態の変化に応じ、随時計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、経過記録に記録を残し、提供したサービス以外にも気づきを観察事項に記入し職員が情報の共有を行っている。また、ユニット会議で介護計画の見直しの際、記録を活用し実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のご家族に泊って頂いたり、一緒にお茶や行事等に参加して頂く機会を作ったり、柔軟な対応、支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護を必要としている場合等、助成を断ち切らないよう社会保障に配慮したり行政と連携をとったり、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族の希望するかかりつけ医への受診を第一に尊重し、他の疾病や緊急の場合等、ご家族様と連携し、協定医療機関にて適切な受診できるように支援している。	入居時に、利用者、家族にかかりつけ医を確認している。現在、2名の方がかかりつけ医に受診している。通院支援では、受診後の結果を家族へ電話等で報告している。受診ノートには、薬名や医師からの指示を記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の、病気変化、バイタル測定を記録に残すと共に、急変時には看護職員に相談し、適切な受診や処置を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と連携を取り、急変時の連絡、衣類、パット等、不備の無いように協働する他、定期的な面会を行い、関係者と情報交換したり、早期退院できるような関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やターミナルケアについて、ご本人様、ご家族様と話し合い、地域のソーシャルワーカーと協働し、医療に依存しなければならない場合等は他療養施設等の検討したり、方針を共有し支援している。	重症化した場合や終末期に対する事業所の方針は曖昧で明確さにかける。医療的処置の割合が高くなった場合を基準に、協力医療機関の医師と家族が相談の上、医療機関を選択し転移している。	重症化した場合や終末期は、当然のこととして予測される事態であり、事業所独自の方針を検討し、支援の取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにて普通救命の講習を実施し学習している他、急変や事故発生に備えてマニュアルが各ユニットにあり、社内勉強会にて学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の他、災害時のマニュアル、連絡網がある。また、スプリンクラー、パッケージ型消化設備を備え、全職員が訓練している。地元消防団の方も避難訓練に参加され、地域へ協力体制を築いている。	年4回の避難訓練を実施、内2回は消防士立会いで消火訓練、避難場所等の確認を行い、また夜間を想定し緊急連絡網を活用した訓練も実施している。備蓄品も準備され万全を期しているが、近隣の方々への訓練参加の呼びかけは行われていない。	災害対策として綿密に計画し真剣に取り組んでいるが、地域との協力体制を更に強化できることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を尊重した声掛け、保守義務の徹底に努めている。具体的には、赤ちゃん言葉を使わない、トイレ介助時はドアを閉める、個人情報物は目の届かない場所に保管等。	利用者への声かけはさん付けであり、トイレへの誘導も言葉を選び、周囲に気付かれないように声かけをしている。また、利用者の人格を損ねるような職員の言動は、管理者が注意している。プライバシーに関するマニュアルを作成し、活用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様とコミュニケーションを取り、希望を聞いている。利用者様に決定して頂けるよう支援している。例えば、コロッケに職員がソースを掛けてしまうのではなく、醤油が良いか、ソースが良いか等決定して頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた業務があっても、利用者様より訴えがあった場合は、利用者様を優先させている。昼食時も体調、希望等により個々にずらしたり、臨機応変に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師さんがこられ髪をカットされたり、入居前に通っていた理髪店に、ご家族様のご協力により、通われている方もいる。毎朝、鏡を見て整容を行い、汚れてしまった場合は、随時更衣等行い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の一部をお手伝いして頂いたり、食膳拭き等役割を持ち、利用者様と職員が共に行っている。	法人の栄養士が献立表を作成し、各ユニットへ配布している。献立表を基に利用者の食べたいものを聞き、好みの食材に変えて、ユニット毎に調理している。落などの野菜の下ごしらえ、テーブル拭き等の食事の準備・片付けを職員とともに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べられる量や、嗜好品、食物の形状などを把握し、バランス良く栄養が取れるように支援している。また、食事、水分摂取量は記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、声掛け、案内、介助等一人ひとりに応じたケアを行い記録に残している。場合によっては、歯科受診等の支援もしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり、トイレ案内、介助を行い利用者様の能力に応じて支援している。オムツにて弄便行為があった利用者様も、リハパンにてトイレで排泄が可能になられた方もいる。	全体の利用者の中で約10人の方がおむつ着用、他の方はパンツ型紙オムツを使用している。ユニット毎に利用者の排泄状態を把握し、1日4回を目安に声かけやトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い食事や、水分補給、散歩をしたり一人一人に対応し、また、朝食後は、副交感神経が活発になり、腸の蠕動運動が起こり便意を感じやすいことから、朝食後には必ずトイレ案内をし便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日以外も、訴えや要望に沿って支援している。入浴剤の使用や、ジャグジー入浴等、楽しみながら入浴できるように支援している。	各ユニットに浴室があり、入浴日をユニット毎に変えていることで毎日の入浴が可能である。またジャグジー風呂(アメリカ製)や、ゆず湯、りんご湯、菖蒲湯等季節に応じた入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動されていた利用者様が、休息出来る気配りや、病気等に応じて休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している、内服薬の説明書を個人ファイルに保管し情報の共有をするとともに、目的、作用、副作用を理解し、状態に応じて記録を残したり、状態の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活にする為に、良くアセスメントし、利用者様の力を活かしたり、趣味をアクティビティの活動に取り入れ、楽しみや気分転換の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って、外出支援を行っている。日常の買い出し、散歩の他、イベント外出にて地域の名所に出かけている。また、ご家族様と協力し、理容室や外食ができるよう支援している。	2～3日間隔での食材等の買い出し時に、利用者を誘って一緒に出かけている。また、車椅子を使用している利用者の場合は、スロープを利用して事業所周辺を散歩している。	利用者一人ひとりの状態(障害)に応じた毎日の散歩の実現を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時等お金を所持したり使えるように支援している。また、自己管理出来る利用者様は日頃から、お金を所持しホームに設置されている自動販売機にてジュースを購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は、電話や手紙のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には、思い出の写真を貼り、楽しい思い出を思い出して頂いたり、季節が混乱しないように、その季節にあった物を飾り付けるなど工夫している。また、使用済みオムツは汚物入れに入れ、消臭剤を使用し、臭いにも配慮している。	床暖房であり、各ユニットの境がドアでしきられている。ユニット毎の食堂兼居間は空気の淀みもなく清潔である。また誰もが利用できる空間に飲物の自動販売機、応接セットを設置し、利用者の交流の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お仲間と良好な関係を保てるように支援を行い、希望に応じて個々のやりたいことができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた布団、タンス等を持って来て頂き、安全に配慮しながら、ご本人様、ご家族様の意向に沿って居心地良く過ごせるようにしている。	居室には床にベッド、マットを置く、畳を敷く等、本人や家族の希望を取り入れている。また使い慣れた桐タンス、仏壇、カラオケ大会で優勝した時のトロフィー等を置き、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置や、段差の無い床等で安全に配慮しながら自立した移動や排泄等行えるようにしている。		